

東京 IPO 特別コラム

2016年8月29日 Vol.45

マザーズ指数底打ちの契機となるか注目の9月 IPO 市場

4月21日の高値1230.82から4か月を経過しているのにマザーズ指数が下値模索を続けています。円高局面の中で全体相場も迫力のない展開が続いていますが、そろそろ中小型株が出直してほしいと願う投資家も多いのかも知れません。先週末のマザーズ指数は894.14で6月24日、7月29日に続く900ポイント割れですが、そろそろ下げ止まる頃ではあってもファンドの解約売りなどもあってか元気がありません。

こうした元気のないマザーズ相場を象徴する出来事が9月2日にマザーズ市場に IPO する予定のベイカレント・コンサルティング(6532)の公募価格が下限で決まったことです。この背景となっているのは相場環境が悪いということもありますが、上場時発行済み株式数1547万株のうち公募5万株に対して売り出し株数が1168万400株と大量だったことが挙げられます。結果として公募価格は2100円に決まり、上場時の時価総額は既に325億円となりますので、マザーズ市場の中では最初から機関投資家が売買の対象とする大型銘柄となります。同社は外資系のアクセンチュアと同様に国内系の総合コンサルティングファームとして優秀なスタッフを抱え業績も急速に伸びており好調な決算が見込まれますが、ファンドの保有株が多く、上場時にこれを放出することになったと見られます。上場時の調達資金は1億円余りに留まり、ファンド保有株を不特定多数の一般投資家が引き受ける形の上場となります。前期にかけ急成長を見せた業績は今期も大幅続伸見込みで上場時の時価総額は今期の経常利益39.15億円にほぼ見合った水準ではありますが、成長に向けた企業トップからのメッセージが明確に示されないと上場後の株価は頭重になると考えられます。ただ、同社には国立大出身でPMP資格を保有するような優秀なIT系の人材が集まっており、上場後は野村総研や三菱総研と比較される可能性があります。前期の経常利益25.8億円から今期は39.15億円と急成長しており、仮に来期以降もこうした成長性が維持できるのであれば上場後に評価を高める可能性もあります。

9月のIPO市場にはベイカレントも含めてマザーズ銘柄が9銘柄、JASDAQ銘柄と東証1部銘柄が1銘柄ずつ上場を予定。詳細は東京IPOのサイトでチェックして頂きたいと思いますが、飲食系3社には格安うなぎ店、宇奈ととを展開するG-FACTORY(3474)や文字通り串カツ居酒屋店を展開する串カツ田中(3547)などの飲食系のほか、医療介護系サービスのカナミックネットワーク(3939)、トーマス・フォーリー氏率いるAI活用型WEBマーケティング企業、シルバーエッグテクノロジー(3961)、IoTビッグデータ関連のチェンジ(3962)、アクセンチュア出身の経営者が展開する「飲食店.COM」を中心としたメディアプラットフォーム企業、シンクロフード(3963)などの注目企業が登場。今回、筆者にとってのサプライズはかつてリサーチでカバーしていた自動車やバイクオークションのオークネットが8年ぶ

東京 IPO 特別コラム

りに東証1部に再上場を予定していること。オークションの対象となるアイテムもブランド品や医療機器へと広がりを見せ、自動車では中国市場でも展開している姿を見るにつけ感慨もひとしお。かつての成長株が一旦MBOで市場から退出して8年間の歳月が流れてしまいましたが、上場後の活躍に期待したいと思います。

(東京 IPO コラムニスト 松尾範久)